

知的好奇心、友人、習慣づけ

理事（教育・学生担当） 西村 周三



ご新入学生のみなさん、ご入学おめでとうございます。受験勉強はさぞお疲れであっただろうと思います。受験勉強中に限って、受験に縛られない好きな勉強がしたくなったという記憶はありませんか？おそらくそういう経験をみなさんがお持ちだと思います。晴れて入学されたわけですから、かなり思いきって好きなことができますね。正規の勉学にはもちろん励んでいただきたいのですが、同時に、多くの新入生諸君は、これからは、これまでと比較にならないくらい自由な時間を持って、好きなことができると思います。

そんな環境のもとで、皆さんにいくつかお奨めしたいことがあります。まず旺盛な知的好奇心を持っていただきたいということです。これから数年のうちに、大部分の学生諸君は次第に専門の勉強へ進むこととなります。言い換えると、自分が専門とすること以外にも広く関心を持ち、学ぶことができる機会や時間は、将来はそう多くないということです。極端に言えば、今だけが手当たり次第に関心を広げることができる貴重な時期であると言えます。そして京都大学は、こういう時期に幅広い多くのことを学ぶ絶好の場を提供しています。

総合大学に入ったことの利点を最大限に利用して下さい。専門とする分野以外の勉強を行うための絶好の環境を利用しない手はありません。全学共通科目を担当される教員には、数多くの、質が高くて、かつ「面白い」先生方がいます。

第二にお奨めしたいことは、いろいろな種類の友人を作る努力をして欲しいということです。体育会や文化サークルなどの活動を通じて、他学部の学生諸君と接することができますし、また講義の前後に（あるいは講義中にも）受講生と知り合いになる努力をすると、いろいろなタイプの学生と知り合うことができます。

私の経験では、入学直後から1～2年の間は、自信喪失と自信回復の繰り返しでした。「京都大学の学生には、こんなにも優秀な人がいるんだ、こんなにも自分にはない能力に恵まれた人がいるんだ」と感じたり、「でも自分も一生懸命勉強すれば、彼／彼女らより、少しは能力を発揮する分野もあるんだ」などと悩んだり、嬉しく思ったりしました。自分にはないすばらしい才能

を持つと尊敬する友人が、意外にも自分を高く評価してくれていることを知った時の喜びは、いまだに忘れません。友人を作る過程は、苦いことや甘いことの入り交じった過程です。

今から思えば、こういう悩みを経ながら、人々は成長していくのだと懐かしく思います。もちろん友人を作ることはそれほどたやすいことではありません。自分がわがままであれば、相手はやはり敬遠します。そういう挫折を繰り返しながら、自らの人格を陶冶（とうや）して欲しいのです。

京都は友人を作るにも格好の土地です。友人を誘って寺社の拝観に行ったり、茶の文化を学ぶこともいいでしょう。コンサートに出かけることも友人を誘うきっかけになります。そのとき、事前に密かに勉強をしておいて、友人に蘊蓄（うんちく）を傾けることもいいでしょう。最後にもう一つ、現実的なお奨めがあります。それは何事も「良い習慣」を身につける努力をして欲しいということです。私にはこういう経験があります。学生時代、若かったものですから、しばしば徹夜をしました。もちろんそれは、勉強であったり、遊びであったり、いろいろな状況でのそれでした。数日続けて徹夜をしたこともありました。ところが3日ほど続いたとき、自分の生活習慣が昼夜逆転していることに気づきました。そして、夕方に目を覚まして、朝方に寝る日が数日続くと、とても憂鬱な気分になり、つまり周りが何事も自分に不利に働いているのではないかと、落ち込んでしまったのです。太陽の明るさを見ない暮らしが続くと、人は憂鬱になるという真理を発見しました。

それ以来、私は「無茶をすることができる」という特権を行使するにあたっては、それが習慣化しないよう、肝に銘じてきました。あることを習慣づける努力をするというのは、何か年寄り臭いもののように思えますが、若者にとってもとても大切だと思います。たとえば喫煙というのは、若い頃は「大人になった証」のように錯覚することが多いのですが、こういう誘惑に乗らないというのも、逆習慣化とも言うべき注意点です。

ともあれ、皆さん、学生生活を、それぞれの計画のもと、有意義に過ごされることを願っております。